



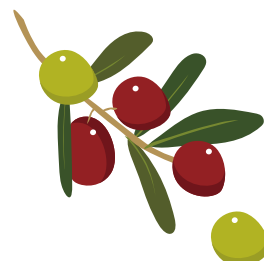
オリーブ栽培者のための情報誌

九州オリーブ通信

Vol. 13

トピックス

行政がサポートするオリーブ事業

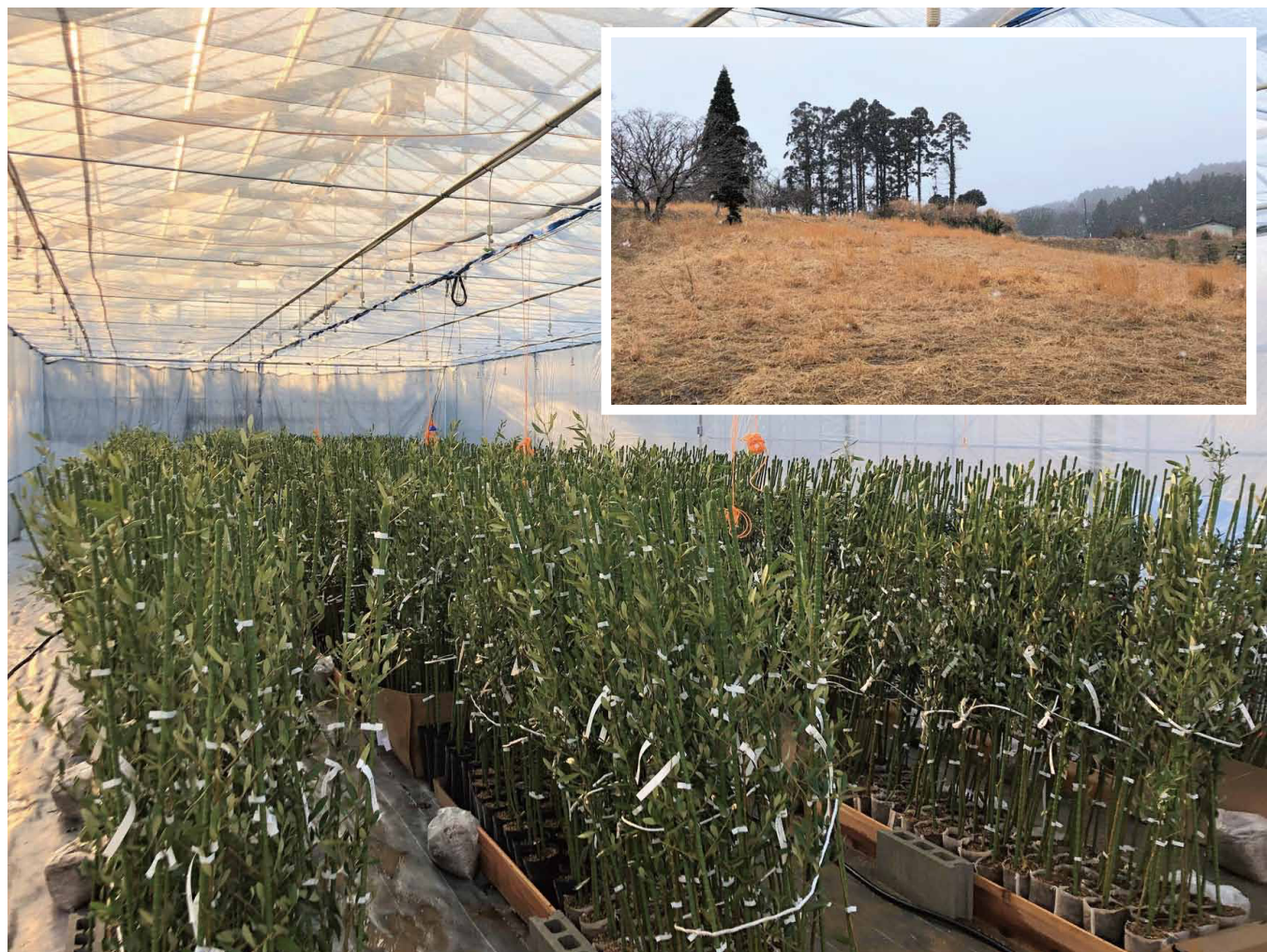


震災復興、地場産業の活性化、雇用創出、健康！

今号のトピックスは、行政がサポートするオリーブ事業。

震災復興、地場産業の活性化、雇用創出、健康寿命の延伸などの一助とすべく、日本各地で行政がオリーブ事業をサポートしています。

今回、宮城県石巻市、静岡県掛川市、山口県熊毛郡平生町、京都府宮津市の事例を紹介します（P.2～3に続く）。



▲石巻市で定植を待つ苗はコロナ禍とウクライナ侵略による物流大混乱の中、奇跡的に欧州から到着。右上は栽培予定地の一つ

各種各様の行政サポートですが、目指すところは同じです



営農型太陽光発電、オリーブ産地化計画、イタリアをテーマとしたまちづくり、団結したオリーブ栽培者と自治体の協力体制。
オリーブ事業を開始する、あるいは拡大する事業者、地域でのオリーブ事業を検討している行政の方々は、是非参考にしてください。

宮城県石巻市

東日本大震災で被災した海岸近くの住宅地や農地は、復興工事の残土置場として使って10年後に原状回復して返却するという契約で石巻市が市民から借り上げました。しかし、2021年3月末、原状回復が間に合わないまま期限を迎えました。そのため、市が土地を買い取り、第三セクターに売却することに決定。その600ヘクタールの土地で営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を計画されているのが、Flat Field Farm株式会社です。

「ITを活用した農業が叫ばれる中、若い世代の営農への転換事業は雇用の確保、人口格差や地域格差などの格差社会解消に大きなインパクトとなる気がします」と語る同社の阿部正敏代表。

補助金または助成金実績：発電設備導入、圃場整備、農業関連

関連URL <https://www.maff.go.jp/j/shokusan/renewable/energy/einou.html>



▲以前、仮設住宅があった土地に新設された育苗用のビニールハウス。阿部代表と工事スタッフが全体を見ながら最終の打ち合わせ中

▲完成したばかりのハウスの中で、イタリアから届いたオリーブの苗を鉢入れ。震災で家族や友人を失った方々も参加されています

静岡県掛川市

掛川市は、「掛川市オリーブ産地化計画～オリーブのあるまち～」と銘打ち、オリーブを新たな主要作物として生産することにより、担い手・後継者不足、高齢化、耕作放棄地の増加等の問題を解消し、6次産業化による地域産業の活性化、雇用創出を目指しています。

また、オリーブの健康効果とお茶の健康効果との相乗効果による、掛川市民の健康寿命延伸に貢献し、有意義な人生を過ごすことにより「健康・子育て日本一」の推進を図っています。

掛川市オリーブ産地化計画では「育てる」「加工する」「販売する」「使う」の4つの柱について取り組んでいます。

補助金または助成金実績：圃場整備、苗木購入、搾油機設置

関連HP <https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/7658.html>



▲剪定講習会の一コマ。読んで、聞いて、見て、切って、数カ月後に確認して。それを繰り返して剪定を理解していきます。当日は静岡県オリーブ普及協会（SOA）の近藤佳裕理事長（上の写真の左端）が指導

山口県熊毛郡平生町



▲「阿多田オリーブパーク」では5品種、319本のオリーブ樹を栽培。近接地には人間魚雷（回天）に関する資料などを展示する町営の阿多田交流館があります



▲「イタリアーノひらおオリーブの森」には現在66本を植樹。町営のハートランドひらおスポーツレクリエーション公園の駐車場に車をとめて散策ができます

町の位置する室津半島の地形がイタリア半島に似ていることから、2018年に平生町は「イタリアーノひらお」宣言を行いました。「イタリアーノひらお」はイタリアをテーマとしたまちづくりを進めていくことで、地域活性化を図る運動の合言葉です。

その取組の一環として、2020年、オリーブの特産品化に向けた業務を行う地域おこし協力隊員が中心となり、町内の海辺にある阿多田公園（愛称：阿多田オリーブパーク）にオリーブを植え、技術の習得とオリーブの特産品化に向けた町主導の試験栽培が始まりました。2022年には山間部に町営の「イタリアーノひらおオリーブの森」が完成。栽培方法の普及を目的としたオリーブ栽培講習会、オリーブ苗木販売などを行うオリーブ植樹イベントも町が主催しています。

支援実績：苗木購入、普及啓蒙用オリーブ加工品（オイル、化粧品など）購入

関連URL <http://www.town.hirao.lg.jp/soshiki/sangyo/shoko/italia/index.html>

京都府宮津市

2019年10月に宮津市のオリーブ栽培者が団結して「宮津オリーブ生産者の会」が結成されました。当地のオリーブ事業の起源となる「由良オリーブを育てる会」と、その後、積極的にオリーブ栽培を進めている日置地域で結成された「日置オリーブを育てる会」、そして宮津市内の個人栽培者の方々により、現在45名の会員で構成されています。

「宮津オリーブ生産者の会」は、オリーブ事業を地場産業とし、地域の活性化を目指すことを目的に、宮津市とともに活動中です。会員相互の情報共有、地元のオリーブ栽培者の栽培支援はもちろん、当会の商品開発部を中心に商品の加工や開発にも積極的に取り組んでいます。

また、市ではオリーブ栽培に従事する地域おこし協力隊員の委嘱実績もあります。

補助金または助成金実績：苗木購入、イタリア栽培研修、加工設備設置、搾油技術研修

関連URL <https://www.facebook.com/miyazuolive.seisanshanokai/>



▲写真左は「宮津オリーブ生産者の会」のメンバーの皆様と、SOAの近藤理事長（前列右から4人目）。右は「由良オリーブを育てる会」のオリーブ畑。毎年、地元の小学生による収穫体験を開催しています。

イタリア産オリーブ in 日本

静岡県浜松市

- 栽培者: 谷川 英範
- 植樹時期: 2019年

営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）でオリーブを育てることにチャレンジされている谷川さん。オリーブオイルを使った化粧品の開発にも挑戦されています。



▲比較のために発電設備外でも栽培し、生長差がないことを確認

熊本県玉名市

- 栽培者: 中山 信春
- 植樹時期: 2011年、2015年、2016年他

退職後の楽しみと農地の管理を兼ねて、寒さに強く、消毒作業もみかんの3分の1程度で済むオリーブ栽培を始めました。3年前から「新漬け」「オイル」を直売場等で販売していますが、生産量の増加に伴い販路拡大が課題です。



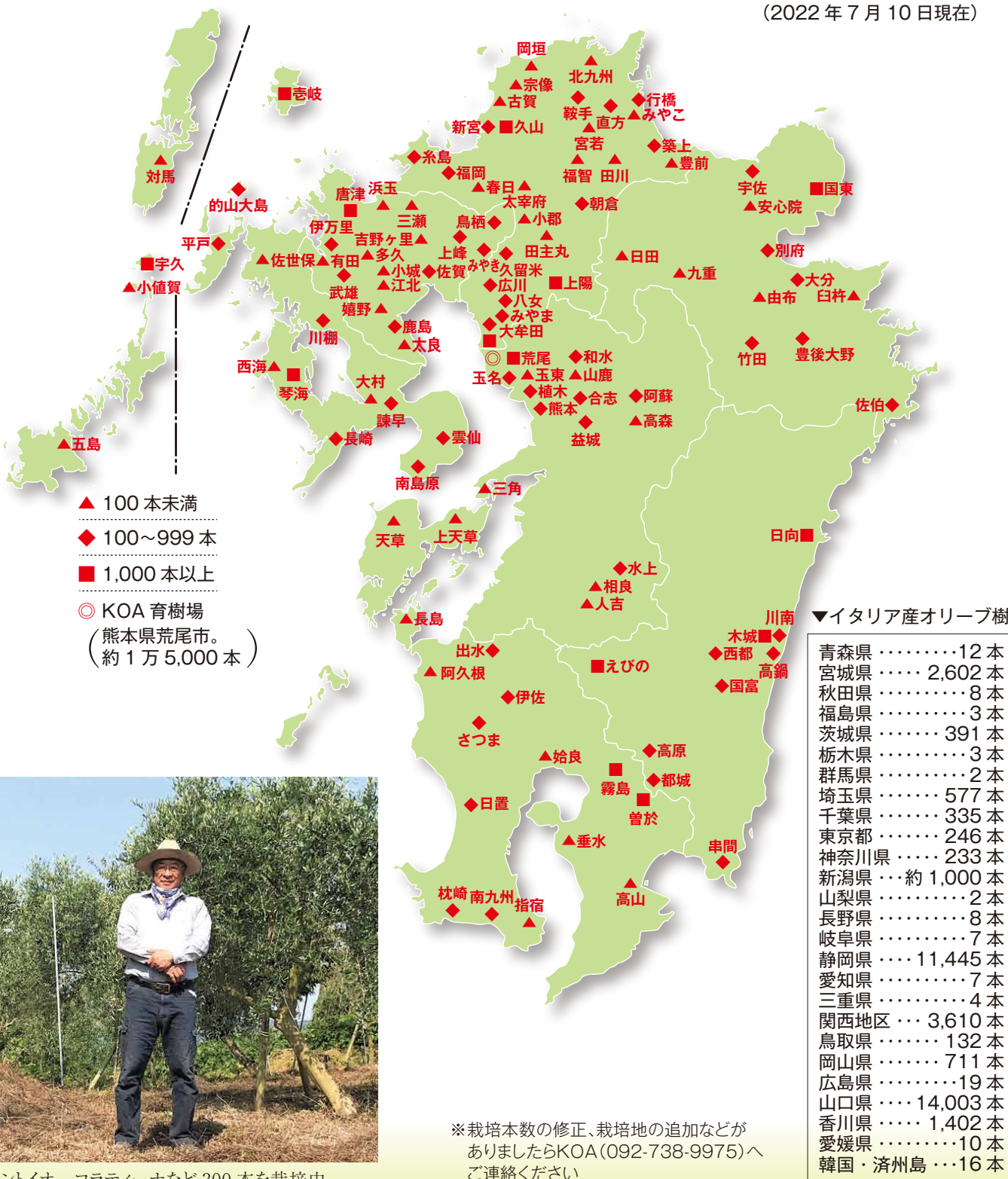
▲2010年、2年生10本の試験栽培からスタートしました



▲太陽光パネルの下部に植えているオリーブ樹の生長を見守る谷川さん

イタリア産オリーブ 九州栽培マップ

(2022年7月10日現在)



▲フラントイオ、コラティーナなど300本を栽培中

鹿児島県曾於市、南さつま市

- 栽培者: 須賀 満信
- 植樹時期: 2014年4月、2016年4月

オリーブに魅力を感じて栽培を始めました。自然相手のため、想定外の事象で失敗の連続。その失敗を次に活かすことが成功の秘訣かもしれません。将来、定年退職の2年後ぐらいから本格的に搾油することが目標です。



▲相続した土地をオリーブ栽培で有効活用



▲曾於市の畑はまだ未収穫。105本栽培



▲南さつま市では2年前から収穫。142本

千葉県長生郡陸沢町

- 栽培者: 金子 健一
- 植樹時期: 2017年

オリーブ栽培を通して豊かで美しい房総を創りたいという想いのもと、耕作放棄地を解消されている株式会社房総オリーブ代表取締役の金子さん。道の駅むつざわの中の、搾油所とカフェの複合施設「オリーブの森」も経営されています。



▲障がい者の方も含め、メンバーで圃場にて集合写真。写真中央が金子さん



◀サイクルステーションと、複合施設「オリーブの森」

国内で栽培・搾油された100%国産オリーブオイルの生産量を増やし、その消費拡大を図ることを目的に、「第1回 純国産オリーブオイル品評会」が開催され、2022年2月11日に審査結果が発表されました。



◀(写真右より)林仁美、服部幸應、関口智幸のお三方が厳正に審査。左端は当品評会を主催した静岡県オリーブ普及協会(SOA)理事長の近藤佳裕

審査について

「日本で育ち、日本の料理シーンに合うオリーブオイル」を選出。香りや後味といったオリーブオイル自体の美味しさに加え、和食など料理ジャンルごとに、料理との相性を含めた複数の項目について各審査委員が評価。評点の合計が高い順に金賞1点、銀賞2点を決定し表彰します。また、全出品オイルに対し、審査委員の評価、意見を個別フィードバック。

審査委員 (敬称略)

服部 幸應／学校法人服部学園理事長、服部栄養専門学校校長、医学博士、和食親善大使。旭日小綬章、藍綬褒章、フランスよりレジオン・ドヌール勲章、国家功労勲章、農事功労章など受章歴多数。本品評会の審査委員長。

関口 智幸／学校法人服部学園 服部栄養専門学校 西洋料理首席教授、調理技術部部长。フランスの名店「トロワグロ」「ジャマン」「ベルナル・ロワゾー」で研鑽。「SMAP×SMAP」等、数々のTV番組、映画でも料理指導。

林 仁美／株式会社ジール シニアディレクター、調理師、フードコーディネーター、食品表示診断士、日本酒利き酒師、ワインソムリエ。「お祝い膳」「坂井宏行氏監修洋風おせちセット」等、有名シェフ監修の商品開発を手掛ける。

審査結果

洋食部門……金賞:サンズオリーブファーム
和食部門……金賞:小関オリーブ農園
その他部門……金賞:株式会社ファームビレッジ湘南

銀賞:株式会社TABEMONO
銀賞:荘内半島オリーブ農園
銀賞:農事組合法人みのり

銀賞:三豊オリーブ株式会社
銀賞:ナガシマファーム
銀賞:角田農園



◀各部門の金賞受賞オイル。左より、洋食の「SUNZ OLIVE (サンズオリーブ)」、和食の「エキストラバージンオリーブオイル(ミッシン早摘み)」,その他の「湘南早摘みブレンド」

金賞、銀賞受賞オイルのお問合せなどは下記より。
<https://www.pdooc.com/result2021-2022/>

ご家庭で使うオイルをエクストラバージンオリーブオイルにする絶好の機会！
大変お得な、1L缶の定期お届けサービスを実施中です

オリーブオイルは、コレステロール値を改善するオレイン酸や、抗酸化作用のあるポリフェノールを多く含んでいます。サラダ油などと違い、製造過程で溶剤添加や高温処理を一切していません。オリーブオイルは、果実をただ搾っただけの100%果汁です。普段、何気なく料理に使っている調理油ですが、生活習慣病を予防し、健康寿命を延ばす為に油の質を見直しませんか。今年9月末日までのお申し込み者全員にオリーブ石鹸をプレゼント中です。同封の注文書でお申し込みください。



九州産 (KOA 謹製)



イタリア・トスカナ産

＼KOAが取り扱うイタリア産オリーブ苗木のメリット！

本場の品種の潜在能力と、10年以上の日本での栽培実績が融合

世界中で愛用されている高品質でバラエティ豊かなイタリア産のオリーブオイル。そのオイルを生み出す本場の優秀な品種。数ある品種の中から、KOAが持つ10年以上の日本各地の情報を基に、優れた栽培実績を示している品種を厳選しています。

育成指導から実の買い取りまで、KOAの苗木は会員サポート付き

栽培指導で実がなるまでフォロー。実が採れたら、ご希望の量を KOAグループが相場価格で買い取ります。加工料のみで KOAグループの加工センターでオリーブオイルや新漬けにすることもでき、会員様の様々なニーズに応えます。

KOAが取り扱うイタリア産オリーブ苗木



フランドイオ

- 油用
- 油含有率 20～23%

トスカナ州の代表品種。世界各地でも栽培されている。オイルはフルーティ(刺激あり)かつ良質。香りも高い。



レッチーノ

- 食用・油用
- 油含有率 17～22%

寒さ、湿気、病気に強い。オイルはマイルドで、果実風味は少ないが爽やかな味わい。



タッジャスカ

- 食用・油用
- 油含有率 23～26%

潮風に強い。トスカナ州の北西、リグーリア州原産。オイルはマイルド。塩漬けも人気がある。



レッチョ・デル・コロノ

- 食用・油用
- 油含有率 19%

寒さ、病気、害虫、乾燥に強い。適応性が高い品種。オイルはややフルーティ(刺激あり)で良質。



ペンドリーノ

- 油用
- 油含有率 22～23%

花粉が多い受粉樹。オイルの風味は繊細で美味。樹形は開帳型。霜が降りたような外果皮が特徴。



マウリーノ

- 油用
- 油含有率 20～21%

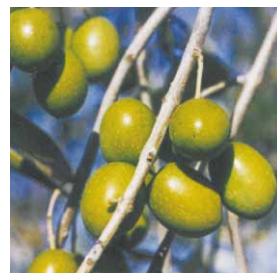
花粉が多い受粉樹。干ばつ、低温に強い。典型的なトスカナオイルを構成する品種。



コラティーナ

- 食用・油用
- 油含有率 21～26%

初結実までの年数が短い。イタリア南部のプーリア州原産。オイルはフルーティ(刺激あり)で、ポリフェノールが多い。



コレツジョーロ

- 食用・油用
- 油含有率 15～18%

初結実までの年数が短い。フランドイオと遺伝子が近い。中部イタリアで多く栽培。オイルはフルーティ(刺激あり)。

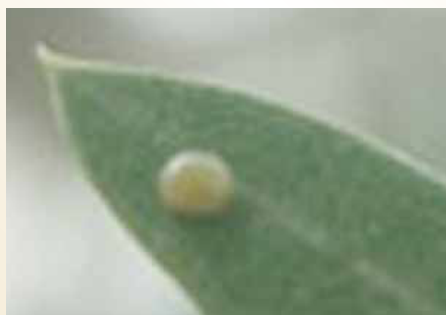
※油含有率はVIVAI PIETRO PACINI社(イタリア)資料による

第6回 スズメガの幼虫

スズメガはチョウ目スズメガ科に分類される蛾の一種。成虫は飛びながら葉などに1粒ずつ卵を産み付ける。孵化した幼虫の姿は典型的なイモムシで、オリーブなど様々な植物の葉を食害する。大食で、一晩で枝全体の葉が無くなることもある。同じ種の幼虫でも個体差で体色が違うことも多い。土中や石の下などで蛹(さなぎ)になる。なお、幼虫、成虫とも毒は持っていない。

【活動期間】 3月～11月

【防除方法】 葉が何枚も無くなっている枝が無いか、糞が落ちていないか見て回る。見つけたら除去。苦手な人は、割りばしや手袋をした手で取り除く。



▲直径2～3mm、ほぼ球状で淡い緑色の卵



▲俵状で黒い糞。長さ約7mm、直径約5mm



▲腹部の末端に尾角という1本の突起を持つ。左下は、体色の異なる個体

編集後記

日本の高齢化・人口減少が本格化する中、農業者の減少や耕作放棄地の拡大による食料自給率の低下が懸念されます。また、SDGsを踏まえた環境と調和のとれた生産も求められます。農業経営面では労働力、資材コスト、生産物価格などが課題です。農業経営に使用

る税制・融資・補助金は、https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_pamph/attach/pdf/zeisei_hojyo-47.pdf (Shin)



九州オリーブ通信 Vol.13 (2022年 7月10日発行)

発行者: 百 富 孝 行

発行所: 一般社団法人 九州オリーブ普及協会(KOA)

〒810-0044 福岡市中央区六本松2-13-5 イーエム六本松駅前4F

TEL: 092-738-9975 FAX: 092-738-9987

HP: <http://kyushu-olive.or.jp/> email: support@kyushu-olive.or.jp